

株式会社JRC

(東証グロース:6224)

2025年2月期 第2四半期(中間期) 決算説明資料

2024年10月

<ご注意>

本資料中の業績予想ならびに将来予想は、現在入手可能な情報に基づき、当社の判断により一定の前提の下に作成されており、リスクや不確定要素等の要因が含まれています。そのため、事業環境の変化などのさまざまな要因により、これら会社の将来情報と実際の業績とは大きく乖離する可能性があります。



JAPAN
ROLLER
CORPORATION

目次

01. 会社概要
02. 上場後のM&Aについて
03. 2025年2月期 第2四半期(中間期)決算説明のポイント
04. 2025年2月期 第2四半期(中間期)決算概要
05. 2025年2月期 連結業績予想

会社概要

会社名	株式会社JRC（英文社名 JRC Co., Ltd.）
本社所在地	大阪市西区阿波座2-1-1 CAMCO西本町ビル6F
代表者	代表取締役社長 浜口 稔
創業	1961年4月（浜口商店 創業）
設立	1991年3月（株式会社JRC）
資本金	131,415千円（2024年3月13日現在）
従業員	368名（連結）（2024年2月末現在）
事業内容	コンベヤ部品の設計・製造・販売及びコンベヤ設備の運用改善・メンテナンス ロボットを活用した自動設備などの設計・製造・販売
グループ会社	JRC C&M株式会社 向井化工機株式会社（JRC C&M子会社） 株式会社大成 株式会社高橋汽罐工業 吉艾希商事（瀋陽）貿易有限公司 中村自働機械株式会社 三好機械産業株式会社

企業スローガン

発見を、発展へ

Discovery to Development

すべては現場を基本としたリアルから見出し、
まだお客様にない視点での**課題の「発見」**から、

不をなくすソリューションを通じて

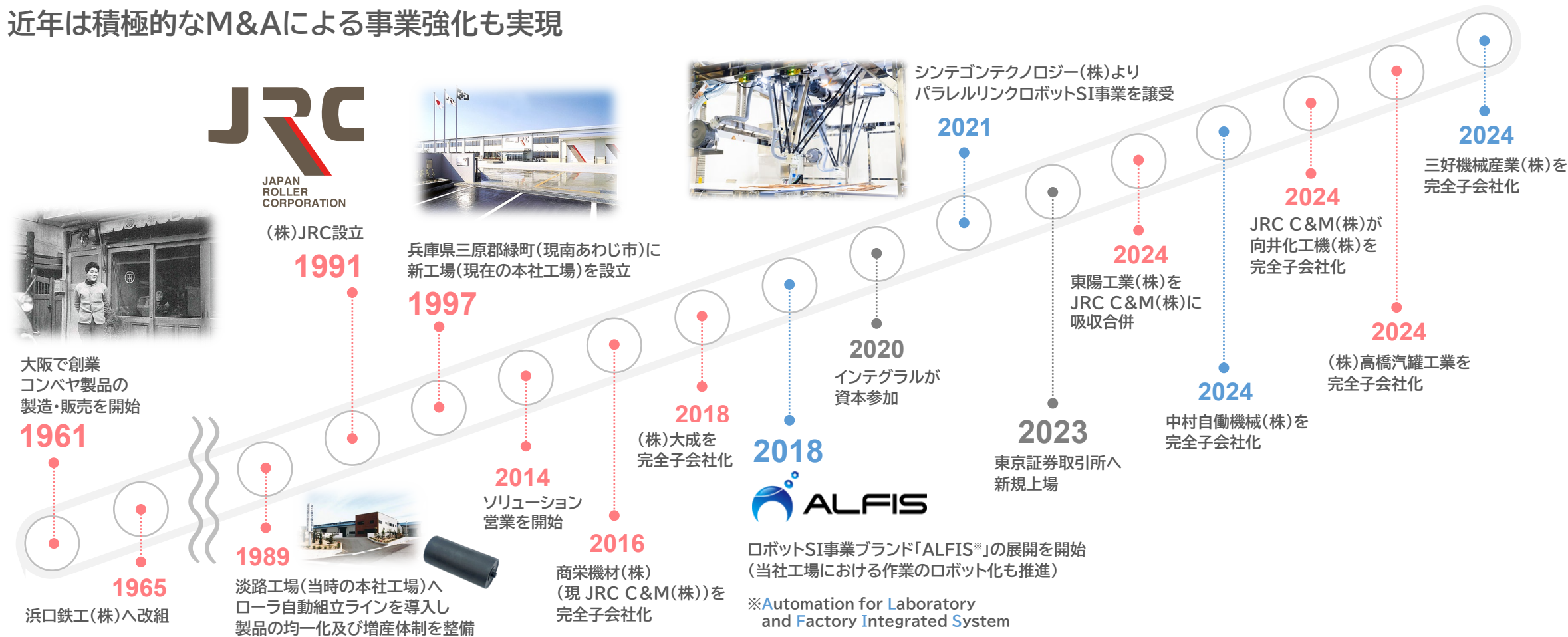
「発展」(JRC・お客様・社会)へと繋げていく意志を

『発見を、発展へ』という

企業スローガンとして表明しています。

顧客課題の発見、ソリューション提供を通じて事業拡大

近年は積極的なM&Aによる事業強化も実現



ニッチトップ・リカーリング、そしてソリューションで成長・拡大する「コンベヤ部品事業」と
 製造業としての経験を活かした高成長な「ロボットSI事業」(ブランド名:ALFIS)の2つの事業を展開

コンベヤ部品事業

ニッチトップ・リカーリング

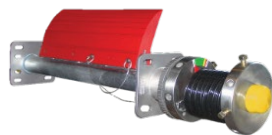
主に屋外用ベルトコンベヤ部品の製造・販売
 コンベヤ・ソリューションの提供



ローラ(アイドラ)



プーリ



周辺機器

- 国内コンベヤ部品市場でトップシェア(52%) ※自社調べ
- 部品製造からメンテナンスまで一気通貫で対応可能

ロボットSI事業(ALFIS)

高成長

使いやすく、導入しやすい、高品質なロボットシステムの開発
 ロボットを活用した自動化ソリューションの提供



パレタイズ



パラレルリンク



自動機OEM

- ロボット・周辺機器を統合し、ロボットを可動状態に
- 自社のコンベヤ部品工場自動化で培ったノウハウを活用

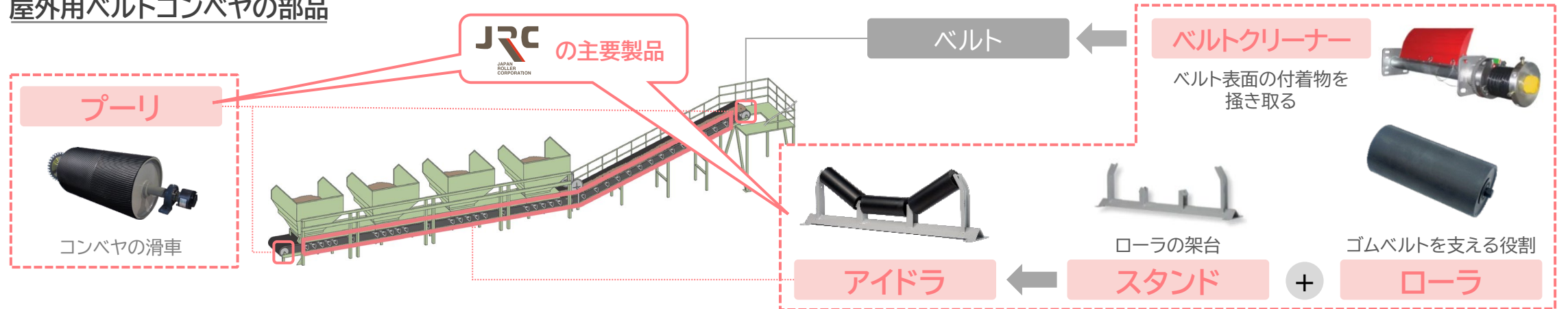
コンベヤ部品事業の概要

連続搬送の合理化・効率化に不可欠な設備である「コンベヤ」

JRCでは基幹産業の現場で多く用いられる「**屋外用ベルトコンベヤ**」の部品を主に製造



屋外用ベルトコンベヤの部品

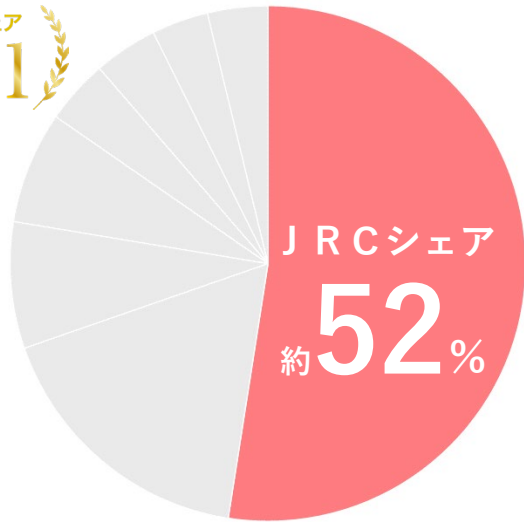


事業の強み

安定感×リカーリング×ソリューション展開で「骨太の事業」を展開

国内トップシェア・盤石の事業基盤

プライスリーダーとしての **高い価格交渉力**

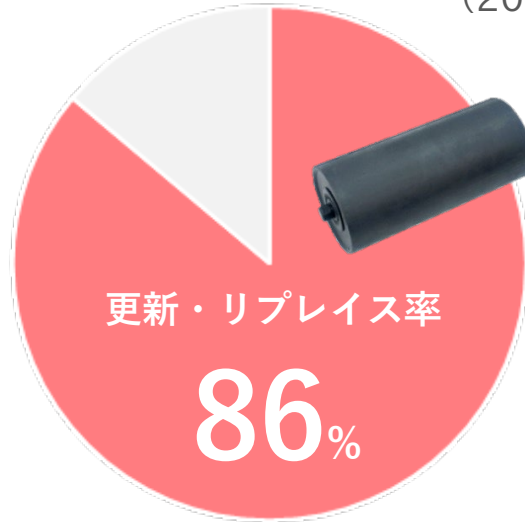


全国・多業種 エンドユーザー1.3万社



交換需要による高い更新・リプレース率

JRCのコンベヤ部品事業における受注分類
(2022年度)



安定稼働に必要不可欠 × 高い交換頻度 × 価格低下しにくい

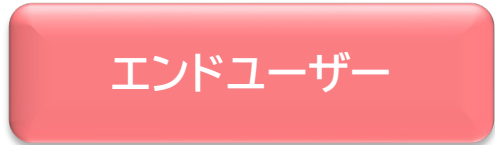
**安定的なリカーリング
収益を実現**

ソリューションによる更なる成長・市場開拓

代理店同行でエンドユーザーの現場訪問
(エンドユーザーへの直接アプローチ)



コンベヤの課題解決に向けた
ソリューションを提案・実施



**「新規顧客獲得」及び
「顧客の囲い込み」**

ソリューションによる高付加価値化事例

エンドユーザーは複数の現場課題が解決される × JRCは高付加価値化により収益向上 = Win-Winの関係を実現

Before(標準品)



屋根に大量に堆積

After (対策品導入から6か月経過)



堆積物のごく少量に

JRCのメリット

標準品対比
価格UP

消耗品交換
価格UP

ユーザーの
囲い込み

収益向上



ユーザーとJRC
Win-Win

課題

原材料
ロス発生

清掃負担・
コスト増大

崩落の
危険



ユーザーの
コスト×

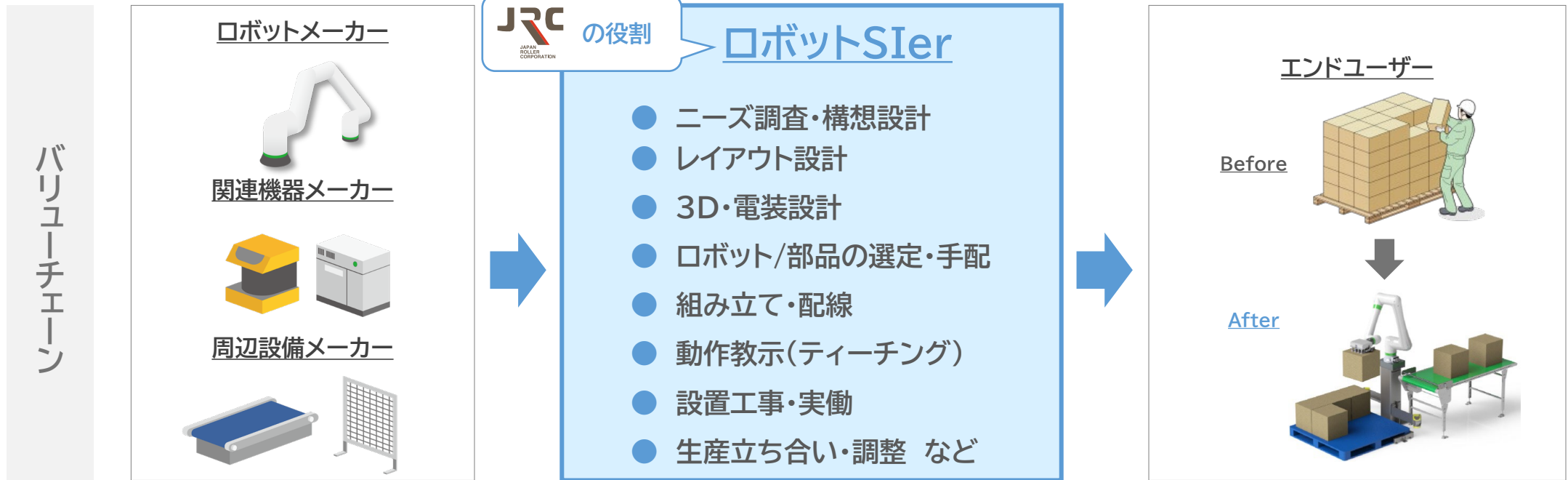
生産性
UP

清掃負担・
コスト減

安全性
UP

ロボットSIer(システム・インテグレータ)として ~ロボットに命を吹き込む仕事~

ロボット及び機器・設備メーカーとエンドユーザーとの間に立ち、ロボットを可動状態にする役割を担う
 JRCの強みを活かし、「ALFIS(アルフィス)」ブランドでロボットSI (システム・インテグレーション)事業を展開

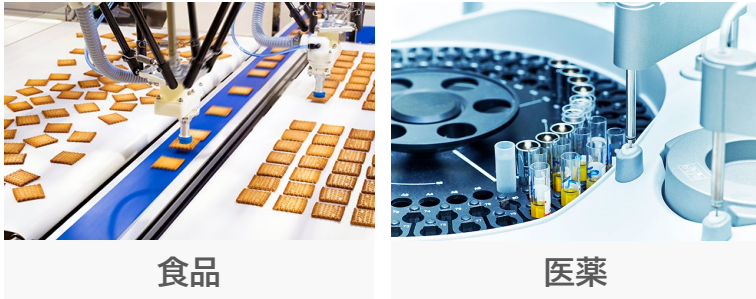


バックボーン

コンベヤ部品事業の強み 盤石の事業基盤・経営安定性・工場自動化のノウハウ

売上伸長の「食品・医薬」領域へのロボットパッケージの横展開・拡販を強化

急成長市場の主体「食品・医薬」



食品

医薬

共通する課題と実態

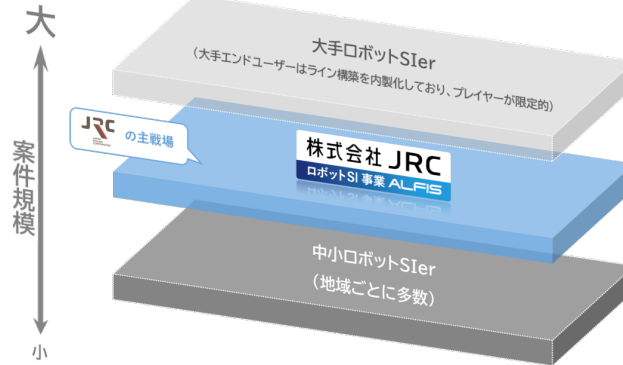
未だに人手作業に依存する現場が極めて多く
近年、特に労働人口減少の影響を受けている



多品種少量かつ衛生対応等の面からロボット化・
自動化は大きく進んでいない(特に搬送工程)

ALFISは「食品・医薬」領域での多品種少量
かつ衛生対応でのロボット化・自動化の
知見・実績を有する(アドバンテージ保有)

競合SIerの参入しづらい隙間市場



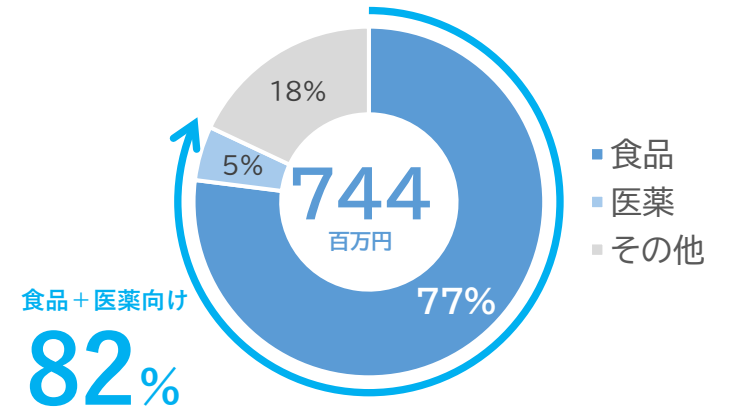
ALFISが主戦場とする「急成長市場」への参入障壁

- 大手** 案件規模が小さく、強みが発揮できない
- 中小**
 - 特定顧客へのカスタマイズ対応で繁忙
 - 標準化のリソース不足 (一品一葉が多い)

急成長市場への参入ハードルは高く
競争は限定的で当社に優位性あり

食品・医薬向けが全売上の82%

2024年2月期 ロボットSI事業 売上高構成比



食品 + 医薬向け

82%

- ・大手食品メーカー各社からの引合いも増加
- ・食品・医薬領域での自動化知見が一層深化

独自のポジショニングを明確化し
売上シェア拡大を加速させる

上場後のM&Aについて

JRCのM&A戦略(目指す姿)

企業ミッション

時代が直面する課題を解決し、社会発展の基盤づくりに貢献するソリューションを創造しつづける。

対象とするセグメント	M&Aによって目指す姿	
	セグメント別	セグメント共通
コンベヤ部品事業	コンベヤ搬送領域だけでなく その周辺領域も含めた トータルソリューションの提供能力の拡大	多様な顧客ニーズに応える 一貫したソリューションの提供によって 人手不足などの社会課題を解決し 持続的な企業価値の向上と 非連続的な成長を実現する。
ロボットSI事業(ALFIS)	拡販可能な技術を有する ロボット関連企業を対象とした ロボット自動化コンソーシアムの形成	

コンベヤ部品事業ではグループトータルソリューションの拡大、

ロボットSI事業では専門性を共有化したロボット自動化コンソーシアムの形成を通じて、

持続的な企業価値の向上と非連続的な成長の実現を目指す。

JRCのM&A戦略(ターゲットと目的)

ターゲット		M&Aの主な目的
事業内容	顧客層	
<div style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">コンベヤ部品事業</div> <ul style="list-style-type: none"> ・コンベヤ・コンベヤ部品・コンベヤ周辺設備の設計・製作 ・コンベヤ搬送及び周辺領域の工事・メンテナンス 	JRCグループと同一もしくは類似	<ul style="list-style-type: none"> ① コンベヤ搬送及び周辺領域の技術・ノウハウの獲得 ② 工事・メンテナンス業務領域の取り込み ③ 設計・生産能力・エリアの拡大
<div style="background-color: #3498db; color: white; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ロボットSI事業</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボティクス・自動化・省力化エンジニアリング ・工場のスマート化(IoTによる生産の最適化) 	食品・医薬等の成長領域	<ul style="list-style-type: none"> ④ 自動化技術・ノウハウの獲得 ⑤ 既存顧客との強い関係性(リピート)の強化 ⑥ 標準化・拡販可能な案件の拡大

コンベヤ部品事業での技術・サービス・市場エリアの強化と、

ロボットSI事業における自動化技術の獲得、顧客関係の強化、スケーラビリティの向上を通じて、顧客基盤を強化し、市場での拡販を図ります。これにより、収益性と市場競争力の向上を実現します。

上場後のM&A実績

M&Aの主な目的

コンベヤ部品事業

- ① コンベヤ搬送及び周辺領域の技術・ノウハウの獲得
- ② 工事・メンテナンス業務領域の取り込み
- ③ 設計・生産能力・エリアの拡大

ロボットSI事業(ALFIS)

- ④ 自動化技術・ノウハウの獲得
- ⑤ 既存顧客との強い関係性(リピート)の強化
- ⑥ 標準化・拡販可能な案件の拡大



セグメント	目的 (①~⑥)	異動年月	名称	所在地	事業概要	事業の強み	狙い
コンベヤ 部品事業	① ③	2024年 3月	東陽工業株式会社 (現 JRC C&M 福島工場)	福島県	都市ごみ焼却設備・ バイオマス発電設備 関連品等の製作・販売	・大手プラントへの長期取引実績 ・高い製造品質 ・広大な工場・土地保有	<JRC C&M> ・売上急増を背景とする生産能力拡大 ・東日本エリアへの輸送費低減 ・顧客層の拡充
ロボットSI 事業	④ ⑤ ⑥	2024年 6月	中村自働機械株式会社	埼玉県	各種自働機械・包装機 械・省力化機械・付帯 装置の設計・製作	・大手食品メーカーへの長期取引実績 ・高い搬送技術 ・設計・製造一貫体制	<JRC ロボットSI事業> ・食品ユーザーに対するクロスセル ・東日本エリアへの対応力強化 ・異なる顧客層への販売強化
コンベヤ 部品事業	① ②	2024年 9月	向井化工機株式会社 (JRC C&M子会社)	神奈川県	水処理設備・環境関連 設備の設計・製作・据 付・メンテナンス	・大手プラントへの長期取引実績 ・高い技術・施工能力 ・公共工事主体	<JRC C&M> ・水処理プラント向け販路拡大 ・トータルソリューションの提供(水処理・ ごみ焼却設備・設計・製作・据付・メンテ ナンス体制) ・営業エリア拡大
コンベヤ 部品事業	① ②		株式会社高橋汽罐工業	神奈川県	原子力・火力・バイオマ ス発電所等の各種工 事・補修・保守・メンテ ナンス	・高い技術力 ・高い現場力 ・柔軟な常駐対応	<JRC コンベヤ事業> ・顧客属性の親和性の高さ ・JRC販売網の活用による強み最大化 ・技術共有によるトータルソリューション 提供力の拡大
ロボットSI 事業	⑤ ⑥		三好機械産業株式会社 (2024年12月吸収合併予定)	香川県	各種コンベヤ・搬送投 入装置・製缶等の設 計・製作	・完全オーダーメイドによる高い技術力 ・特定顧客からの厚い信頼 ・点検・修理などの安定受注	<JRC ロボットSI事業> ・特定顧客以外の販売先への販路拡大 ・人員補強による受注拡大 ・グループ参入によるアップセル

今期連結業績への影響

異動年月	名称	譲渡価格	費用計上	業績寄与	ご参考(直近業績)
2024年3月	東陽工業株式会社 (現JRC C&M福島工場)	55百万円	時期: 24.2月期計上 額 : 13百万円	PL: 25.2月期より BS: 25.2月期より	24.3月期 売上高: 260百万円 営業利益: Δ20百万円
2024年6月	中村自働機械株式会社	3百万円	時期: 25.2月期上期計上 額 : 37百万円	PL: 25.2月期3Q(予定) BS: 25.2月期2Qより	23.10月期 売上高: 347百万円 営業利益: 17百万円
2024年9月	向井化工機株式会社 (JRC C&M子会社)	377百万円	①時期: 25.2月期上期計上 額 : 5百万円 ②時期: 25.2月期3Q(予定) 額 : 38百万円(予定)	PL: 25.2月期4Q(予定) BS: 25.2月期3Q(予定)	23.8月期 売上高: 662百万円 営業利益: 131百万円
	株式会社高橋汽罐工業	1,800百万円	①時期: 25.2月期上期計上 額 : 7百万円 ②時期: 25.2月期3Q(予定) 額 : 93百万円(予定)	PL: 25.2月期4Q(予定) BS: 25.2月期3Q(予定)	24.3月期 売上高: 1,876百万円 営業利益: 436百万円
	三好機械産業株式会社 (2024年12月吸収合併予定)	63百万円	時期: 25.2月期3Q(予定) 額 : 10百万円(予定)	PL: 25.2月期4Q(予定) BS: 25.2月期3Q(予定)	24.7月期 売上高: 191百万円 営業利益: 34百万円

M&Aによる連結業績への影響については、合理的に予測可能となった時点で公表予定

2025年2月期 第2四半期(中間期) 決算説明のポイント

決算説明のポイント

第 2 四 半 期 (中 間 期) 実 績

コンベヤ部品事業が好調に推移し、売上利益ともに前年同期を上回る

コンベヤ部品事業

安定した更新・リプレイス需要に加え、環境プラント向けソリューションが力強く成長

ロボットSI事業

期ズレの長期化やM&A費用計上の影響による下振れ

2025年2月期 連結業績予想

売上高106.2億円(+12.2%)、営業利益15.8億円(+24.5%)、経常利益16.0億円(+25.9%)、当期純利益10.6億円(+26.3%)を計画し、4期連続の増収増益を目指す

株 主 還 元

2025年2月期は、1株当たり中間13円、期末13円の年間26円の配当を予定し、増配を目指す

2025年2月期 第2四半期(中間期) 決算概要

第2四半期(中間期)連結業績ハイライト

売上高

前年同期比(増減)

4,949百万円 **+12.7%** (+558百万円)

事業計画

達成率

5,049百万円 **98.0%**

営業利益

前年同期比(増減)

651百万円 **+30.8%** (+153百万円)

事業計画

達成率

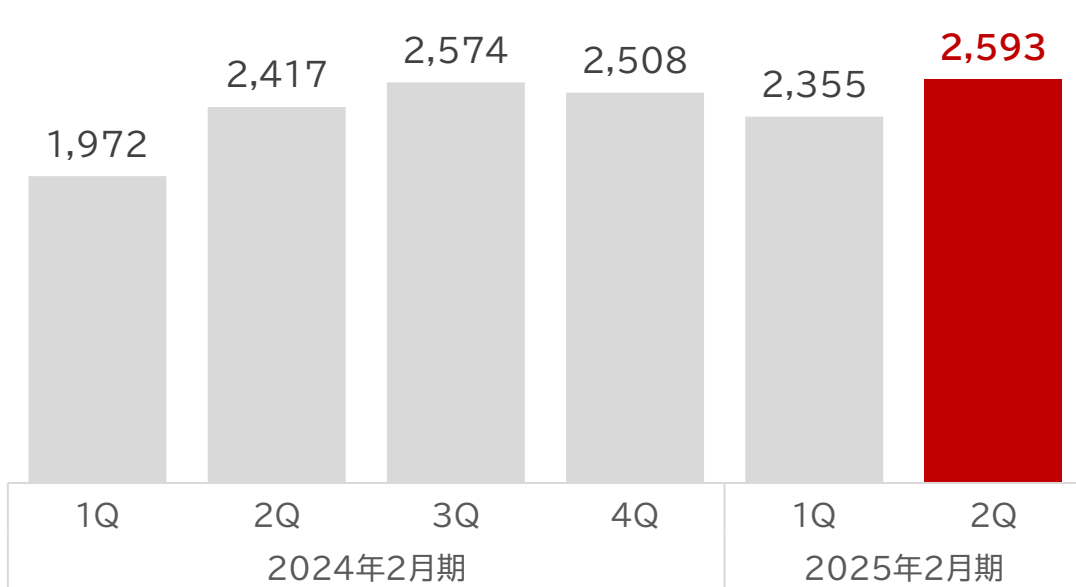
691百万円 **94.2%**

- ・ コンベヤ部品事業が好調に推移し、売上高・営業利益ともに前年同期を上回る
(売上高は四半期ベースで記録更新)
- ・ ロボットSI事業において、第2四半期にも案件の期ズレが発生

連結売上高・営業利益の推移(四半期)

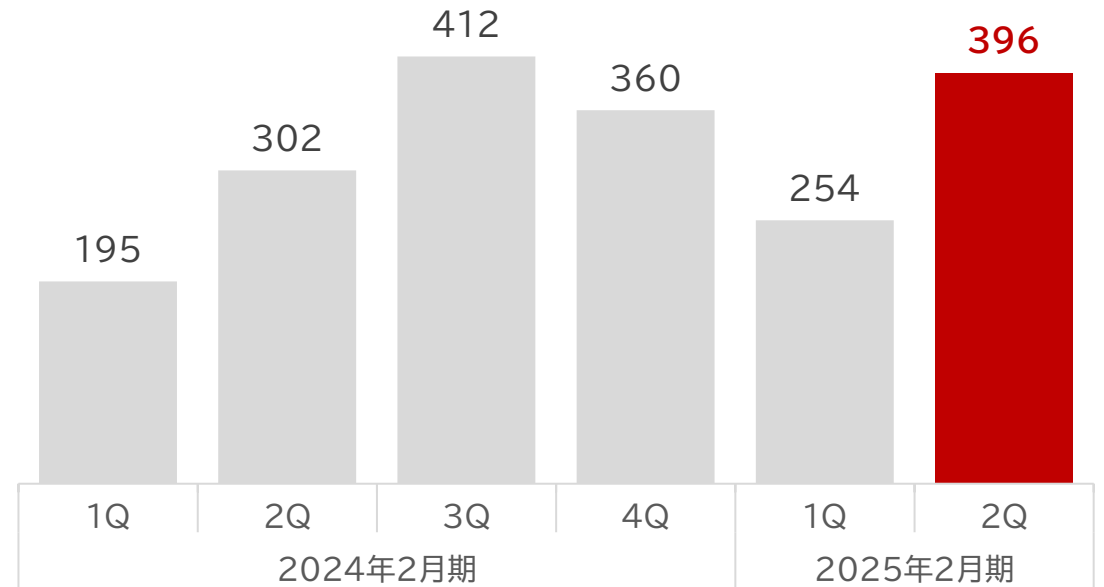
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



- JRC C&Mにおける環境プラント向けソリューションが連結業績を牽引
- 一次的なM&A費用により、営業利益率が低下

連結損益計算書

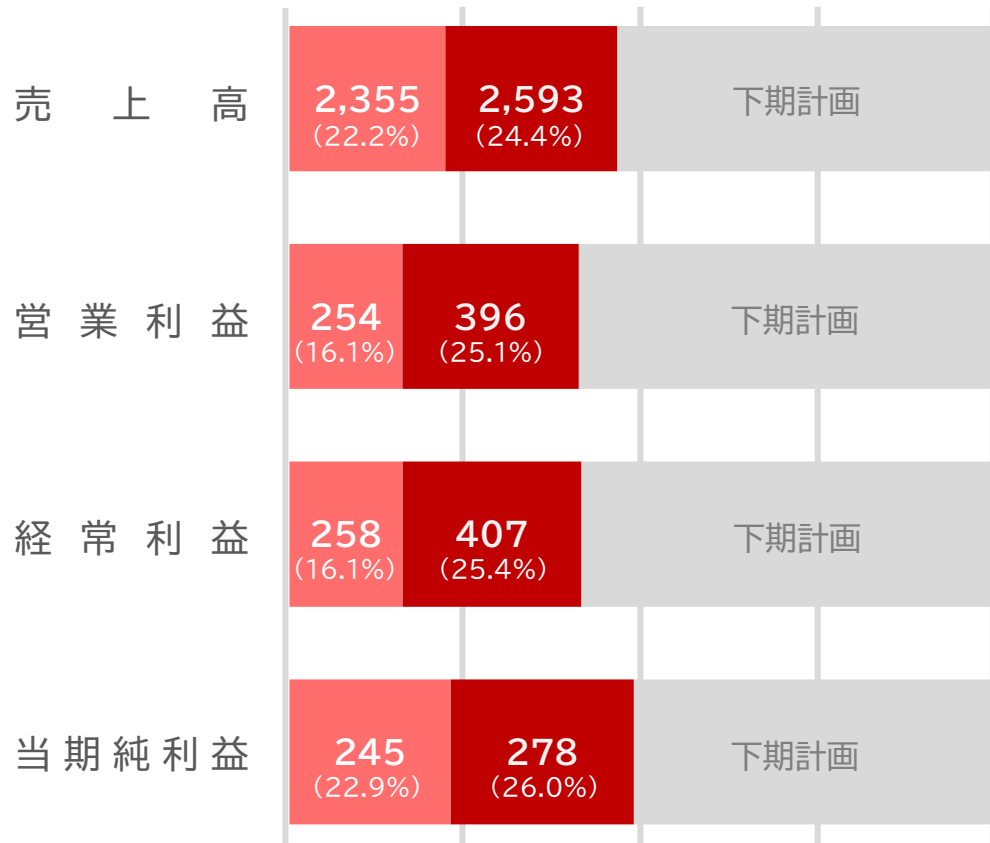
(単位:百万円)

	2024年2月期					2025年2月期			累計前年同期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	
売上高	1,972	2,417	2,574	2,508	9,473	2,355	2,593	4,949	+12.7%
売上総利益	652	784	909	867	3,213	829	957	1,786	+24.4%
売上総利益率	33.1%	32.4%	35.3%	34.6%	33.9%	35.2%	36.9%	36.1%	+3.4Pt
営業利益	195	302	412	360	1,270	254	396	651	+30.8%
営業利益率	9.9%	12.5%	16.0%	14.4%	13.4%	10.8%	15.3%	13.2%	+1.8Pt
経常利益	191	308	412	360	1,273	258	407	665	+33.1%
当期純利益	127	166	279	273	847	245	278	523	+77.9%
E B I T D A	251	359	470	421	1,502	311	457	768	+25.8%

第2四半期(中間期)連結業績の状況

達成率・進捗率

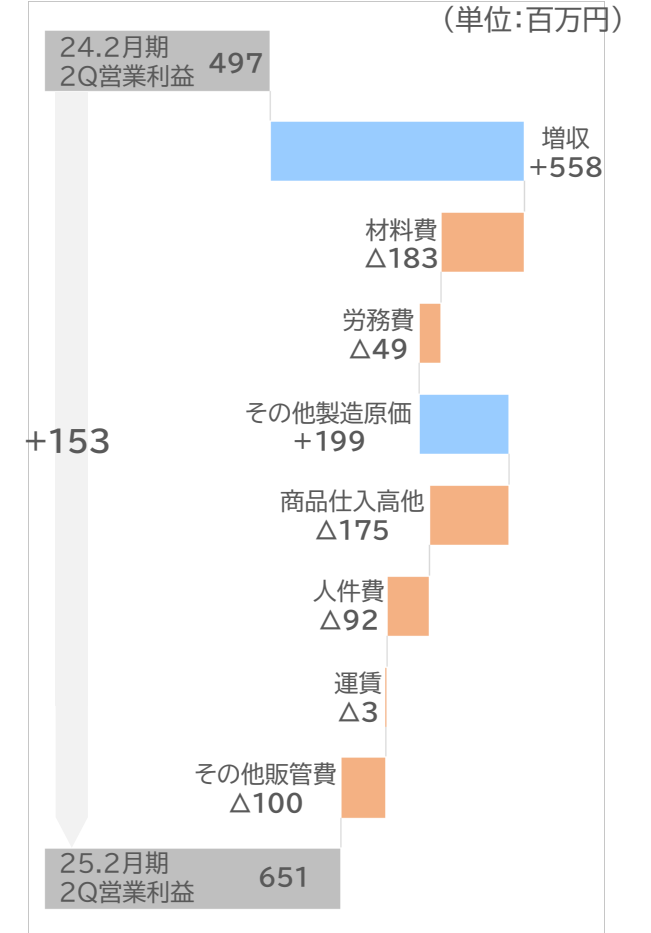
(単位:百万円)



	事業計画	
2Q達成率	2,799	92.6%
上期達成率	5,049	98.0%
通期進捗率	10,627	46.6%
2Q達成率	474	83.6%
上期達成率	691	94.2%
通期進捗率	1,582	41.2%
2Q達成率	480	84.7%
上期達成率	700	95.1%
通期進捗率	1,604	41.5%
2Q達成率	315	88.3%
上期達成率	462	113.1%
通期進捗率	1,069	49.0%

営業利益の増減要因

(単位:百万円)



コンベヤ部品事業 第2四半期(中間期)業績ハイライト

売上高

記録更新

前年同期比(増減)

4,841 百万円

+15.2% (+639百万円)

事業計画

達成率

4,690 百万円

103.2%

営業利益

記録更新

前年同期比(増減)

745 百万円

+34.0% (+189百万円)

事業計画

達成率

700 百万円

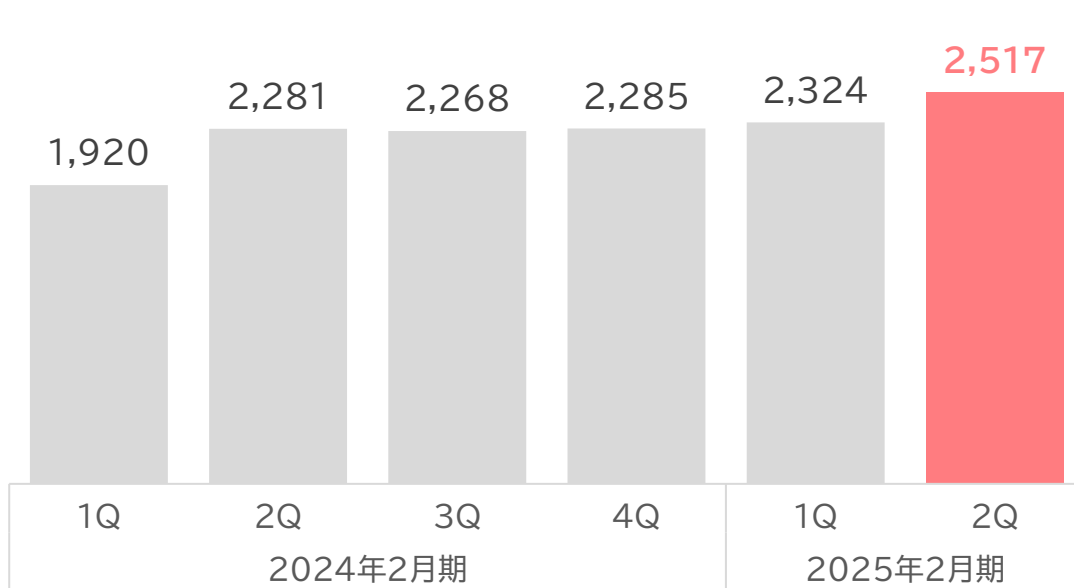
106.4%

- ・ 安定した更新・リプレイス需要に加え、環境プラント向けソリューションが力強く成長
- ・ インドネシアを中心に、海外事業も順調に進捗

コンベヤ部品事業 売上高・営業利益の推移(四半期)

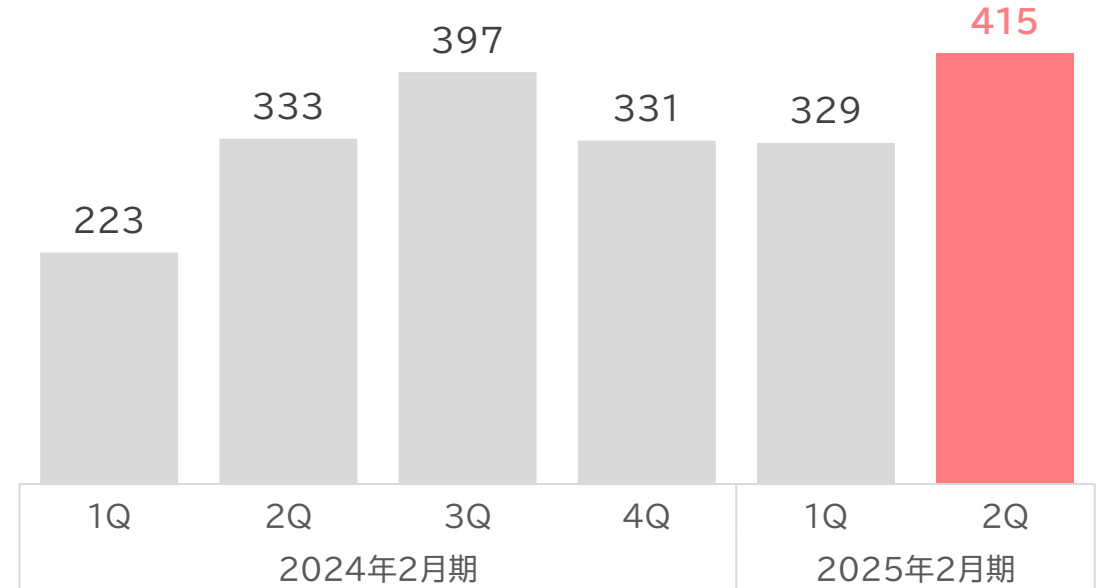
売上高

(単位:百万円)



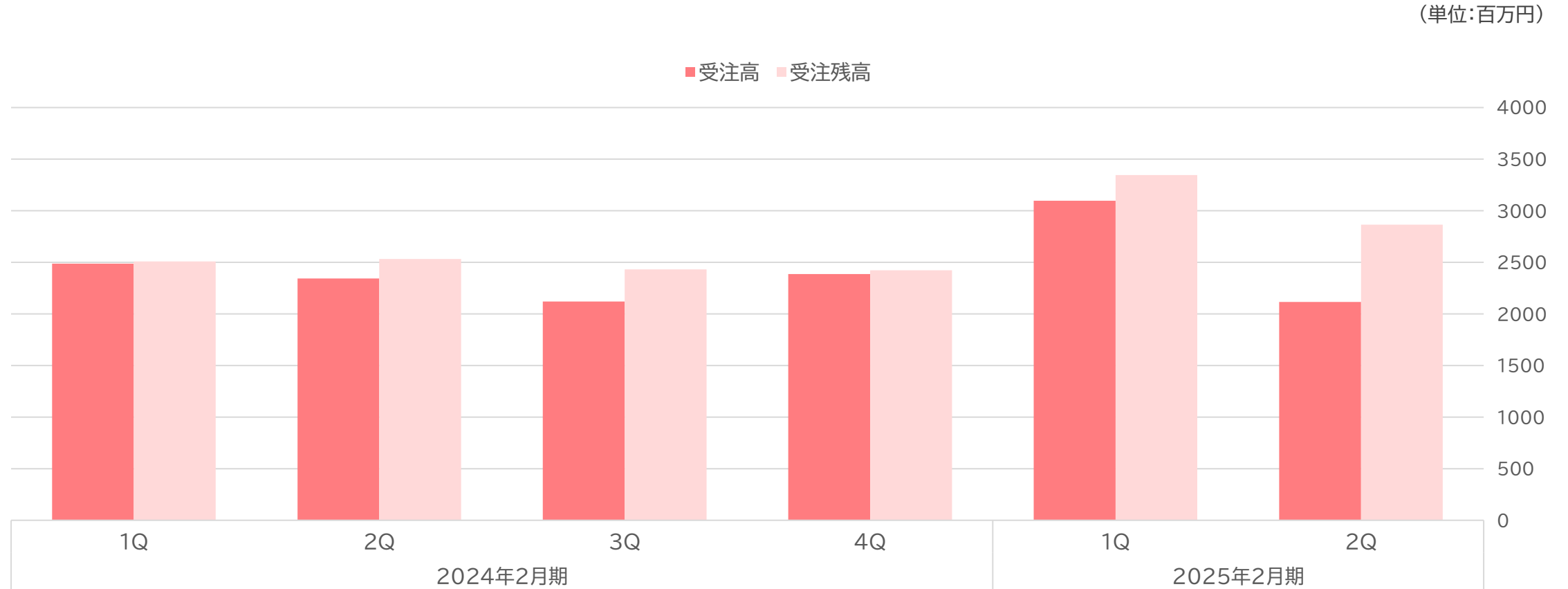
営業利益

(単位:百万円)



JRC C&M福島工場(旧東陽工業)稼働による生産能力の拡大が、業績をさらに押し上げる

コンベヤ部品事業 受注状況の推移(四半期)



- ・ 第1四半期 : 海外大型案件やJRC C&Mの受注拡大により高水準で推移
- ・ 第2四半期 : 強いリプレイス需要をベースに安定的に推移

ロボットSI事業 第2四半期(中間期)業績ハイライト

売上高

前年同期比(増減)

109 百万円 $\Delta 44.5\%$ ($\Delta 87$ 百万円)

事業計画

達成率

359 百万円 30.4%

営業損失

前年同期比(増減)

$\Delta 93$ 百万円 $\Delta 42$ 百万円

事業計画

$\Delta 9$ 百万円

- 上期業績下振れ要因

- 売上高 : 第2四半期にも納期・仕様変更による期ズレ発生

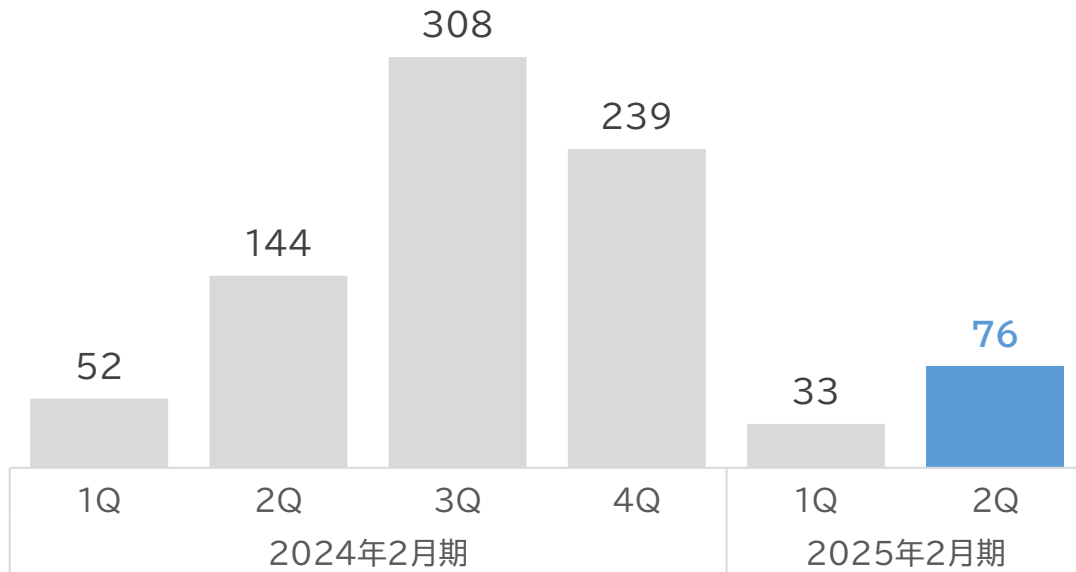
- 営業損失 : 売上減少 + M&A費用計上

- 2024年6月に中村自働機械株式会社を連結子会社化(業績の連結は第3四半期より)

ロボットSI事業 売上高・営業利益の推移(四半期)

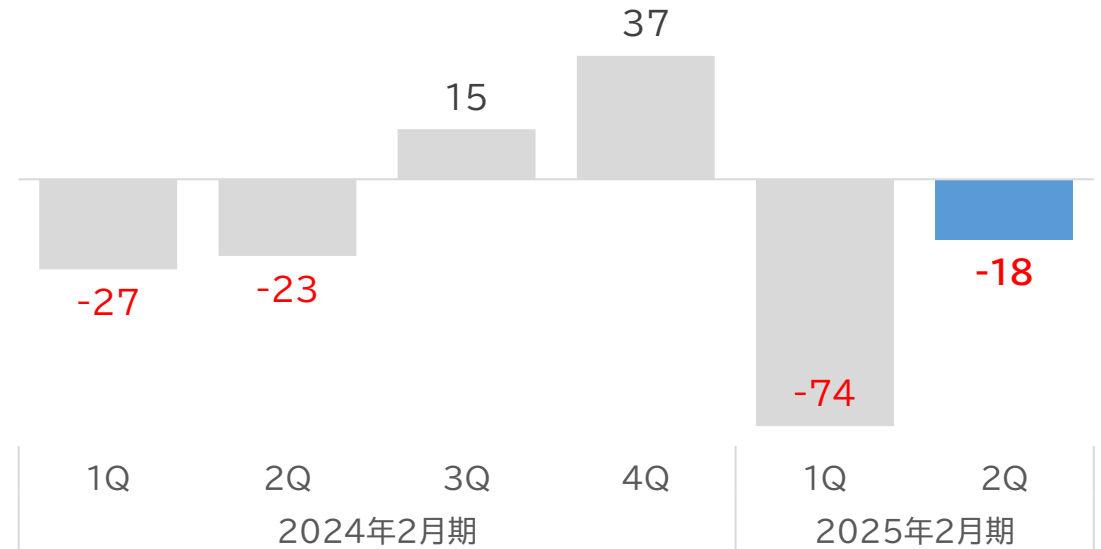
売上高

(単位:百万円)



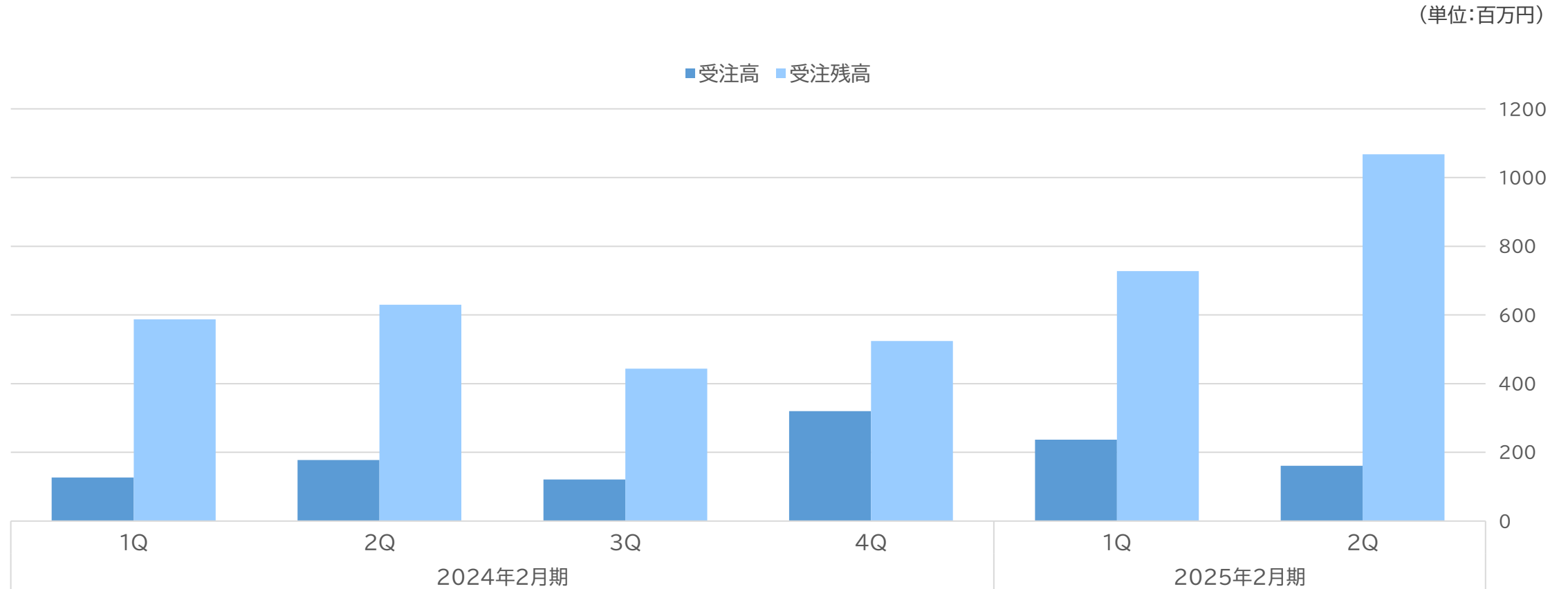
営業利益(損益)

(単位:百万円)



- ・ 第2四半期より黒字化を計画するものの、損益分岐点に届かず
- ・ 下期は過去最高の受注残高を確実に取り込み、計画達成を目指す

ロボットSI事業 受注状況の推移(四半期)



- ・ 食品・医薬業界の強い自動化ニーズとこれまでの納入実績により、リピート案件が増加
- ・ 下期はM&A効果を最大化させ、さらなる受注獲得を目指す

連結貸借対照表

(単位:百万円)

(単位:百万円)

資 産	2024年2月末	2024年8月末	前期末比	負 債	2024年2月末	2024年8月末	前期末比
流動資産	6,332	7,696	+1,364	流動負債	2,914	4,449	+1,535
固定資産	3,722	3,924	+201	固定負債	3,343	3,025	△318
有形固定資産	2,971	3,179	+208	負債合計	6,257	7,475	+1,217
無形固定資産	151	142	△8	純資産			
投資その他資産	599	602	+2	純資産合計	3,797	4,146	+348
資産合計	10,055	11,621	+1,566	自己資本比率	37.8%	35.7%	△2.1pt

<流動資産>

現金及び預金	1,452	2,838	+1,386
売上債権	3,469	3,265	△204
棚卸資産	1,160	1,513	+352
その他流動資産	249	79	△169

<負 債>

仕入債務	1,646	2,025	+378
有利子負債	3,662	4,208	+546
その他負債	948	1,240	+291

2025年2月期 連結業績予想

2025年2月期連結業績の見通し

(単位:百万円)

	2023年2月期 実績	2024年2月期 実績	2025年2月期 予想(変更なし)	前期比	
				増減額	増減率
売上高	8,961	9,473	10,627	+1,153	+12.2%
コンベヤ部品事業	8,457	8,756	9,673	+916	+10.5%
ロボットSI事業	503	744	953	+209	+28.1%
売上総利益	3,023	3,213	3,824	+611	+19.0%
売上総利益率	33.7%	33.9%	36.0%	-	+2.1pt
営業利益	1,252	1,270	1,582	+311	+24.5%
コンベヤ部品事業	1,264	1,285	1,511	+226	17.6%
ロボットSI事業	△12	1	70	+68	-
営業利益率	14.0%	13.4%	14.9%	-	+1.5pt
経常利益	1,270	1,273	1,604	+330	+25.9%
当期純利益	830	847	1,069	+222	+26.3%

2025年2月期連結業績は、4期連続の増収増益に加え、増配を目指す

KPI計画及び進捗

(単位:百万円)

		2024年2月期実績					2025年2月期実績			計画	進捗率
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期		
全社	売上高	1,972	2,417	2,574	2,508	9,473	2,355	2,593	4,949	10,627	46.6%
	営業利益	195	302	412	360	1,270	254	396	651	1,582	41.2%
	営業利益率	9.9%	12.5%	16.0%	14.4%	13.4%	10.8%	15.3%	13.2%	14.9%	—
コンベヤ部品事業	ソリューション売上高	309	320	396	456	1,483	457	326	783	1,656	47.3%
	ソリューション売上高比率	20.0%	18.1%	21.9%	24.1%	21.1%	24.0%	16.9%	20.4%	23.0%	—
ロボットSI事業	受注高	127	178	121	320	748	237	161	398	1,200	33.2%
	営業利益	△27	△30	21	37	1	△74	△18	△93	70	—

2025年2月期においてもチャレンジングなKPIを設定し、力強い成長を目指す

株主還元

基本方針・配当予想

当社は、株主に対する利益還元を経営上の重要課題の一つと認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、継続的かつ安定した配当を行うことを基本方針とし、連結配当性向30%程度を目安に配当の実施を目指しております。この方針に基づき、剰余金の配当は期末配当の年1回の実施としておりましたが、中長期的な株主価値の向上を図る観点から、株主の皆様への利益還元の機会の一層の充実を図るため、2025年2月期より、剰余金の配当を中間配当と期末配当の年2回の実施とすることといたしました。

以上のことから、2025年2月期につきましては、1株当たり中間13円、期末13円の年間26円の配当を予定しております。

	2024年2月期実績	2025年2月期予想		
		中間	期末	年間
1株当たり配当金	21円	13円	13円	26円
配当性向	31.3%	—	—	29.5%